

プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系

坂井建雄, 松村譲児 監訳

＜書評者＞ 塩田浩平 (京都大学大学院教授・形態形成機構学)

16 世紀に出版されたヴェサリウスの『ファブリカ』以来, 今日に至るまで, 解剖学書は絶えざる発展を遂げてきた。なかでもドイツ学派の貢献が最も大きくかつ重要で, ドイツからは数々の歴史的名著が出版されてきた。その伝統の上に, このたび『プロメテウス解剖学アトラス』という, その名も壮大な解剖学書がドイツ解剖学の泰斗 3 人によって新たに完成され, それを坂井建雄教授と松村譲児教授がいち早く日本語版でわれわれに提供してくれた。

肉眼解剖学の多くの書物は, いわゆるテキスト中心の教科書的書物とアトラス (図譜) がそれぞれ別に作られ, 両者を併せて用いることにより人体の構造の詳細を学ぶことができるようになっている。しかし, 『プロメテウス解剖学アトラス』は, こうした従来の常識を打ち破り, まったく新しいアイデアで構成されている。すなわち, 1,700 点に及ぶ図のそれぞれに比較的詳しい説明文が付けられ, 構造のポイント, 周囲の器官・組織や

全身との関連, 構造と機能の相関などが図に即して効率的に理解できるように配慮されている。

また, 図譜の生命である図は, 他に類を見ない斬新なものが非常に多い。コンピュータグラフィックスを駆使して作られたユニークな構成の図が, 従来の写生的な図では描出できなかった視点からの情報をわかりやすく与えてくれる。多くの図譜は写実的な図を中心に構成されているが, 本アトラスでは, 写生的な図に加えて, 模式図やシェーマもふんだんに用いられ, 生体の構造と機能が有機的・立体的に説明されている。図はすべて実際に忠実でありながら, 新しいグラフィックス手法で作られたため実に美しく色彩も明るいので, 眺めていても楽しい。

本書は原著 3 巻のうちの 1 巻で「解剖学総論/運動器系」を扱っているが, 運動器の構造と立体的位置関係を網羅的に, かつこれほどわかりやすく解説している解剖学書は余り他に例をみない。なかでも運動学的な解説は秀逸で, 各関

節の動きに伴う骨格の変位と可動域, 荷重の変化, 靱帯と筋の機能などが, ユニークな視点からの解説とそれを補足するわかりやすい図によって説明されている。また, 肉眼解剖学的構造と機能を理解するうえで役立つ発生学的事項も, 随所にとり入れられている。

最近の学生は安直な書物に流れがちであるが, 本書のような本格的な名著によって解剖学を学習できる幸運を学生諸君が理解し, その喜びを十分享受するよう願っている。本書は, 医学生・歯学生のみならず, PT, OT, 柔道整復師などをめざすメディカル系の学生にとってもバイブル的な書となるものである。さらに, 本書は, それぞれの部分が独立した内容をもって完結しているので, 臨床医ならびにその他の医療従事者が座右において辞書的に参照するのにも好適の書である。学生から医師, コメディカルスタッフまでの幅広い読者層に本書が歓迎されることを確信している。

●A4 変型 頁 560 2007 年
定価 12,600 円
(本体 12,000 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00239-4]
医学書院 刊